



発行所(〒371-8666) 群馬県古市町1-50-21
 上毛新聞社
 電話 市外局番(027)
 編集 254-9833 (広告) 254-9844
 印刷 254-3131 (編集) 254-9856
 印刷 254-9885 (出版) 254-9886
 (FAX) 254-9836 (発送) 254-9884
 (総機) 254-9877 (総合) 254-9911
 © 上毛新聞社 2003年

生花市場 ネットで連携

群馬県中央園芸と 福島、茨城の3社 共同仕入れで競争力

本県と福島、茨城三県の生花を扱う卸売市場三社は八日、共同で仕入れなどを行う「北関東コンソーシアム(共同事業体)」を設立することを発表した。コンソーシアムはインターネット上に仮想市場を構築し、十月からの稼働を目指す。三市場がまとまってネット上で注文を取りまとめることで、取扱高が準大手市場と肩を並べることになるため、大型産地との取引が可能になり、競争力の強化やコスト削減などの効果が期待される。

『東コンソーシアム』設立プレス発表会



コンソーシアムに参加するのは、高崎市下大須町の群馬県中央園芸と福島花き、茨城県水戸中央花き市場の三社。事務局は中央園芸に置かれ、同社の相馬正一社長が会長を務める。地域市場の共同事業体としては広島、岡山、香川、愛媛四県の「瀬戸内ネット」が既にあり、来月から稼働するが、共同で仕入れを行うのは、北関東コンソーシアムが初めて。総事業費は約七千万円で、農水省の補助を受ける。仮想市場では、ネット上で三市場の注文を取りまとめて産地に発注。産地側は埼玉県川越市の共同荷受所に出荷し、そこから、それぞれの市場に配送される。ネットを利用してはいたが、発注情報や出荷情報などが分かりやすい形で提供されるようになる。産地にとっても安定した出荷先が増えるメリットがある。将来的には、コンソーシアム独自の物流センターの設置や電子決済の仕組みなども検討するという。三市場の年間取扱高の合計は約九十億円となり、準大手市場並み。このうち30%ほどをコンソーシアムで扱うことを目指している。

この日、都内のホテルで開かれた記者会見で、相馬会長は「大型産地や銘柄産地のほか、これまで周辺地域にしか出荷できなかった産地が新たな市場を開拓できるメリットがある。ネットを使った取引に産地側の理解がどのくらい得られるかが今後の課題だ」と話している。

都内のホテルで記者発表する相馬会長(中央)ら